

光厳寺(前橋市)

こうがんじ

光厳寺長屋門(天明五年1785年建立) / 宝塔山古墳の墳頂に墓地がある江戸時代初期にこの地を治めた総社城主の秋元家歴代の菩提寺



楼門(文化年間/1804年 から 1817年 までの期間)



楼門前から長屋門方向を見る



天台宗光巖寺の文化財

慶長12年(1607)総社領主秋元越中守長朝侯は、総社城と城下町を完成させ、元総社の徳蔵寺を移し光巖寺を開基された。山号は秋元氏の姓、院号は長朝の江月院殿より、寺号は長朝の母の光巖院殿よりそれぞれつけられ、秋元山江月院光巖寺として秋元氏の菩提寺とした。本尊は釈迦牟尼如来立像。寛永3年(1626)將軍秀忠より寺領御朱印高30石を賜り、慶安2年(1649)家光より徳蔵寺(隠居寺)の御朱印高16石を合わせ46石を支配してきた。

現在の建造物は本堂(文政3年)、秋元家御廟所(文化9年再建)、庫裡(文化10年)の再建、長屋門(天明5年5月建立)、楼門(文化年間)・薬師堂・元三大師堂・鐘楼(明和9年)等が並び建ち、天台宗地方寺院(修行寺)として僧侶の養成の役目を果たしてきた。寺内の廟所前には県指定史跡の「力田遺愛碑(安永5年(1776))」、南北朝期の東覚寺七重多層塔・薬医門(市指定重文)の外10数点の文化財が収蔵されている。墓地には明応4年(1495)造立の石幢(市重文)が保存されている。

平成18年3月吉日

総社地区史跡愛存会

薬医門/江戸時代初期に総社城の門だったものを移築したと推定される/前橋市指定重要文化財









前橋市指定重要文化財 光厳寺薬医門 昭和50年12月24日指定

薬医門は鎌倉時代末期か室町時代初期(14世紀中頃)の武家や公家の屋敷に現われた門形式の一つで、後に城郭、社寺にも使われるようになりました。本柱が門の中心線から前方にずれているところに特徴があり、本柱と控柱をむすぶ梁の中間の上に束や葦股をのせて切妻屋根をのせた門です。元来は門扉はなく、『運歩色葉集』では医師の家の門に使われ病人の往来を妨げないとされていたり、城門の一種として『矢喰』があげられた、といった語源が考えられます。



光厳寺薬医門は、本柱と控柱の間隔が2.1mあり、これは、城門として、城をめぐる厚い築地のなかにおさまるようつくられており、以前は別のところにあったものを現在地に移築したものです。

装飾は、板葦股にある4つの紋(三巴・五三の桐・立ち沢瀉・剣片喰)が唯一のもので、簡素に作られていることから江戸初期あるいはそれ以前の建造と推定されます。この時期の建築を現代に伝える、市内でも数少ない古建築の一つで、貴重なものです。

≡ 前橋市教育委員会



袴腰鐘楼(明和九年/1772年)



秋元氏は関ヶ原の合戦の直後、総社一万石に封ぜられた。

それまでJR新前橋駅の北方にあった城を、今の総社の位置に移して現在の総社町の中心街となる城下町を築いた。それまで城があった地域は現在「元総社」と呼ばれているという。

本堂(右手)と庫裏(左手)



本堂(文政三年/1820年再建)



本堂(手前)と文化十年(1813年)再建の庫裏(後方)



本堂屋根妻壁



本堂唐破風玄関



楼門境内側



左手は薬師堂



薬師堂(右手)と元三大師堂(左手)



元三大師堂



秋元氏の霊廟/文化九年(1812年)再建









光嚴寺七重石塔/室町時代中期/前橋市指定文化財



元々は総社町高井の東覚寺跡にあったといわれる



標柱では「東覚寺層塔」となっている



市指定重要文化財 東覚寺層塔

1. 指定年月日 昭和48年9月24日

1. 所在地 前橋市総社町総社1607 光巖寺

1. 所有者 光巖寺

概要 安山岩製。高さ417cm。相輪七層の屋蓋。塔身二重基台から成る。上下基台の上端には反花座が彫られ、塔身および上部基台の各四面は縦割りに3区に分けられている。基台正面には中央に格狭間状に切った孔と香炉が彫られ、その左右両区に花瓶が配されている。一方、両側面には各々3体ずつ六観音像が平坂状に彫られている。塔身の正面は中央に四角い孔をあけ、その左右両区に大きく「南無阿彌陀仏」と彫っている。反花座を含めたこれらの彫刻の技法は室町時代の特徴を良く表わしている。

この塔は総社町高井の東覚寺跡にあったものと伝えられる。

さまざまな石造物







後の農民がこの秋元氏の治政に感謝し、安永五年(1776年)に造立した「力田(りよくでん)遺愛碑」という碑



蛇穴山古墳の脇を流れる「五千石用水」はこの天狗岩用水から引水されたという

県指定史跡

力田遺愛碑

指定年月日 昭和25年6月16日
所在地 前橋市総社町総社1607 光巖寺境内
所有者 光巖寺



天狗岩用水(秋元長朝の立石橋付近)

総社藩主となった秋元長朝は、領内の荒れた土地に水田を開くために利根川から用水を引く工事を始めた。多くの農民たちがかかわったが、大きな岩などがあり、工事はむずかしかった。天狗岩用水という名は天狗の手助けがあったという伝説にちなんだものである。慶長9年(1604)

に用水は完成し、水が田畑をうるおした。その後、秋元氏は他の国へ移ったが、安永5年(1776)、この碑が農民たちによって建てられた。最後の4文字に「百姓等建」とあり、用水を引くことに力をつくした藩主によせる農民たちのおもいがあらわされている。

前橋市教育委員会

長屋門から出る



参考ホームページ

<http://guntabi.web.fc2.com/maebasi/kougen.html>

http://www.sukima.com/15_kantou/17kouganji.html

<http://www.geocities.jp/kawai24jp/gunma-maebasi-kouganji.html>

<http://ameblo.jp/kazkazh8/entry-10038753866.html>



インターネットより